

協議会だより

第5号

【目指す子ども像】

- ◇ 夢に向かって自ら学ぶ子
- ◇ つながり（絆）を大切にする子 （事務局）宇治田原町教育委員会
- ◇ 誇りを持ってふるさとを語れる子 教育課 TEL(0774)88-5850

「宇治田原町小中一貫教育推進協議会」は、25年度最終の第5回会議を開催しました。

2月17日、町総合文化センターで、第5回宇治田原町小中一貫教育推進協議会を開催し、今年度の本協議会の総括と来年度以降の本町の「小中一貫教育推進」について、協議を行いました。その内容について、概要を報告させていただきます。

1 本年度の主な協議事項と、その中で協議会として確認した内容は・・・

(1) 宇治田原町のめざす小中一貫教育について

（平成24年度宇治田原町小中連携・一貫教育のあり方検討会議「審議のまとめ」を踏まえて）

- ① 3校が「育てたい子ども像」の達成を共通目標として、義務教育9年間を見通した一貫性のある教育を協働して進める。
 - 各学校の教職員の意識改革と指導力の向上を図る。
 - 子どもたちに進級への見通しと安心感を持たせ「小中ギャップ」を適切なハードルとし、義務教育9年間でより充実した成長の期間にする。
 - 子どもたちの学力充実・向上と生活の安定を図る。
- ② 本協議会は、本町の小中一貫教育をより具体的に推進するための方策を提案していく。

(2) 「小中一貫教育推進アンケート」に関わって

- ① 現在3校が行っている小中一貫教育の実践内容については、7、8割の高い支持があり、今後一層、内容の充実を図る。そのためにも、学校側の情報や活動の内容をもっと具体的に、いろいろな方法で保護者、地域に丁寧に広報する。
- ② 今後、協議を行う予定の学校施設の形態等にかかわらず、子どもたちの一層の学力向上と、豊かで健全な心身の成長を図るため、9年間の連携した教育を推進する。
- ③ 地域住民や保護者に向けて、小中一貫教育についての今までの説明が不十分。このアンケートをスタートの一つと考え、今後は一貫教育のメリット・デメリットも含め、各種の方法により、さらにスピードアップして丁寧な広報をする。

(3) 「施設一体型小中一貫教育校」「分離・隣接型小中一貫教育校」について

- ① 本協議会として、学校施設のあり方に関わる協議内容は、教育委員会が今後、本町独自の小中一貫教育を進めていく上での参考となるものとして、意見交換を行っていく。
- ② いずれの形態であっても「小中一貫教育」は推進できるし、現在の立地状況の中、3校が実践を進めている内容も小中一貫教育の取組内容と考える。

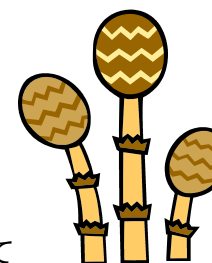
(4) 小中一貫校「学園構想」について

3校の一体化をより一層図っていくため、一つの「学園」としての運営のあり方について、今後も引き続き、本協議会で検討していく。

(5) 学校と地域・住民、保護者連携について

一貫教育推進について地域住民や保護者を対象とした広報や説明をていねいに行い、地域や保護者の皆様からの情報や意見を取り入れる中で、一層の連携強化を図っていく。

（裏面に続きます。）



2 来年度の本協議会の課題、協議内容は・・・

(1) 宇治田原町の特色ある小中一貫教育の推進についての協議をより具体的に進めるとともに、その内容や課題等について、地域や保護者の皆様を対象とした丁寧な広報を行うとともに、住民の皆様からご意見を伺うことも検討する。

○ 文書・HPの広報、住民・保護者説明会等について、具体的な内容・方法を協議していく。

(2) 「育てたい子ども像」に向けた地域・保護者の皆様と学校との連携強化を図る。

○ 「3学校評議員連絡協議会」(仮称)をはじめとして、「地域連携部」活動のより具体的な内容について協議する。

(3) 3校教育のより一体化を図るため、小中一貫教育「学園」の組織体制や運営についての具体的な内容を検討し提案する。

○ 学園長決定、学園名、開校式、シンボルマーク・学園章・学園歌、学校運営協議会(コミュニティスクール)等について、学校側からの情報や提案をもとに協議を進め、実施していく内容や事業を協議する。

3 本協議会の「小・中学校連携部」と「地域連携部」から、活動の報告と今後の方向性の説明がありました。

(1) 「小・中学校連携部」より

① 教職員の交流と協働について

子どもたちの学力向上や生活の安定を目指す小・中学校9年間を接続する授業の研究や小中一貫教育についての研修を実施している。

② 児童生徒の交流や体験活動について

合同の学習や行事、部活動や児童生徒会活動、合唱や作品での交流などの実施により、児童生徒の豊かな情操面やコミュニケーションの力の育成を図っている。



③ 9年間のつながり(なめらかな接続)について

宇治田原町の9年間の教育で「育てたい子ども像」を掲げ、その実現に向け宇治田原町の自然や歴史を学ぶ学習を指導のカリキュラムに位置づけ、実践していくことをめざす。

※ 来年度は①、②、③を一層進めるための「学園構想」に関わる情報発信や提案を協議会に行っていく。

(2) 「地域連携部」より

○ 11月に3校の学校評議員、学校支援ボランティア、PTAの方々と校長、教委等19名で第1回「地域連携拡大部会」を開催しました。そこで出された内容は次の通りです。

① 「町の先生や学校支援ボランティア」など学校支援組織の育成・拡充

② 「あいさつ運動」をはじめとする地域ぐるみの子育ての取組の充実

③ 「地域と家庭、PTA」を軸とする地域コミュニティの充実

④ 地域から学校への情報発信として、「従来からある各組織の一層の機能化」を図る

⑤ 学校から地域への情報発信として、「学校の一層の開放と人的派遣」の工夫の5点を確認しました。

○ 第2回拡大部会(1月30日)で上記の内容を確認。

また、来年度は、3校の学校評議員が合同会議を持ち、協議・交流を行いたいという提案についても確認しました。

『お礼』

推進協議会の委員の皆様、本町の小中一貫教育の推進に係り、今年度、5回にわたり、熱心なご協議をいただき、感謝申し上げます。推進協議会として最終年度の26年度には、小中一貫教育をより確かなものにするため、「維孝館中学校区としての学園の立ち上げ」及び「将来の本町立2小学校のあり方」について、ご協議いただく予定です。来年度末に推進協議会としての最終的なまとめをいただき、今後の小中一貫教育推進に係る教育行政の施策に生かしたいと考えておりますので、委員の皆様、引き続き、ご協議の方、よろしくお願いいたします。

宇治田原町教育委員会